令和８年度庁議報告事項	
第１１回庁議（２０２６年９月１４日）	環境部ごみゼロ推進課

【件名】
令和７年度のごみ収集量及び資源回収量並びに令和８年度組成分析調査の結果について

【要旨】（目的・内容・対象・時期・今後の方向等）
中野区における令和７年度のごみ収集量と資源回収量が確定した。また、令和８年度組成分析調査の結果が出たので、あわせて報告する。
なお、この結果については、今後のごみ減量施策や清掃事業の推進に活用していく。

１　ごみの収集量

（１）収集量

令和７年度のごみの収集量の合計は、前年度比 98.5%の 52,172t であった。

（単位：ｔ）

	５年度	６年度	７年度	７年度と６年度の比較	
				増減量	年度比
燃やすごみ	51,055	50,271	49,565	-706	98.6%
陶器･ガラス･金属ごみ	154	145	130	-16	89.3%
粗大ごみ	2,555	2,563	2,478	-85	96.7%
合計	53,763	52,979	52,172	-807	98.5%

※ 収集量について、小数第一位で四捨五入している。併せて、端数処理の関係上、合計と内訳、増減量及び年度比が一致しない場合がある。

（２）区民一人１日あたりごみ量

令和７年度の一人１日あたりのごみ量は前年度比 97.9%の 416ｇであった。

（単位：ｇ）

	５年度	６年度	７年度	７年度と６年度の比較	
				増減量	年度比
ごみ量	436	425	416	-9	97.9%
23 区の順位	３位	３位	３位	-	-

※ ごみ量について、小数第一位で四捨五入している。

２　資源の回収量

令和７年度の資源の量は前年度比 97.4%の 19,315ｔであった。

（単位：ｔ）

資源品目	５年度	６年度	７年度	７年度と６年度の比較	
				増減量	年度比
缶	967	942	911	-30	96.8%
びん	2,728	2,614	2,501	-112	95.7%
資源プラスチック（プラスチック製容器包装）※1	2,126	2,241	2,252	11	100.5%
ペットボトル	1,310	1,412	1,366	-46	96.7%
古紙	10,624	10,354	10,034	-320	96.9%
古着・古布	439	432	431	-1	99.8%
乾電池	30	31	33	2	105.4%
食用油	3	3	3	0	99.3%
小型家電	6	8	10	3	134.3%
蛍光管	2	3	3	0	98.5%
金属系粗大	433	438	501	63	114.3%
陶器・ガラス・金属	1,453	1,344	1,269	-75	94.4%
合計	20,121	19,822	19,315	-507	97.4%

※　回収量について、小数第一位で四捨五入している。併せて、端数処理の関係上、合計と内訳、増減量及び年度比が一致しない場合がある。

※1　令和５年度の分別区分は「プラスチック製容器包装」。令和６年度から製品プラスチックを含めた「資源プラスチック」に分別を変更した。

３　組成分析調査

（１）目的

集積所に排出されるごみの組成を明らかにすることで、現状の施策の効果を計るとともに、効率的に施策を推進するための基礎資料とする。

（２）調査期間

令和８年６月１日(月)から６月 13 日(土)までのうち、６月７日(日)を除く 12 日間

（３）内容

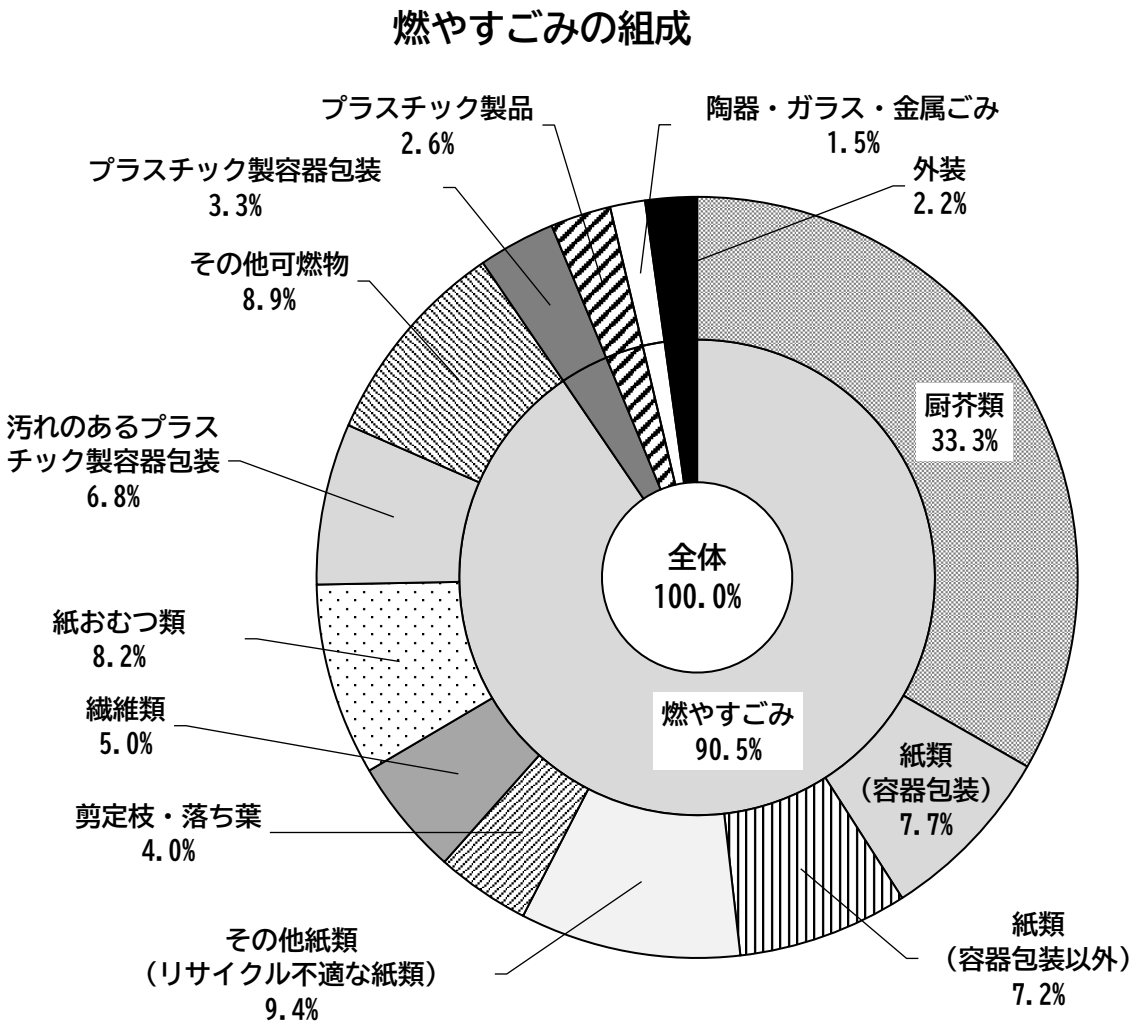
燃やすごみ 100kg、陶器・ガラス・金属ごみ 50kg を目安に回収の上、組成分類項目に従い 42 種に分別し、測定等を行った。

調査サンプル量は、燃やすごみが 1,841.09 kg、陶器・ガラス・金属ごみが 519.81 kgであった。

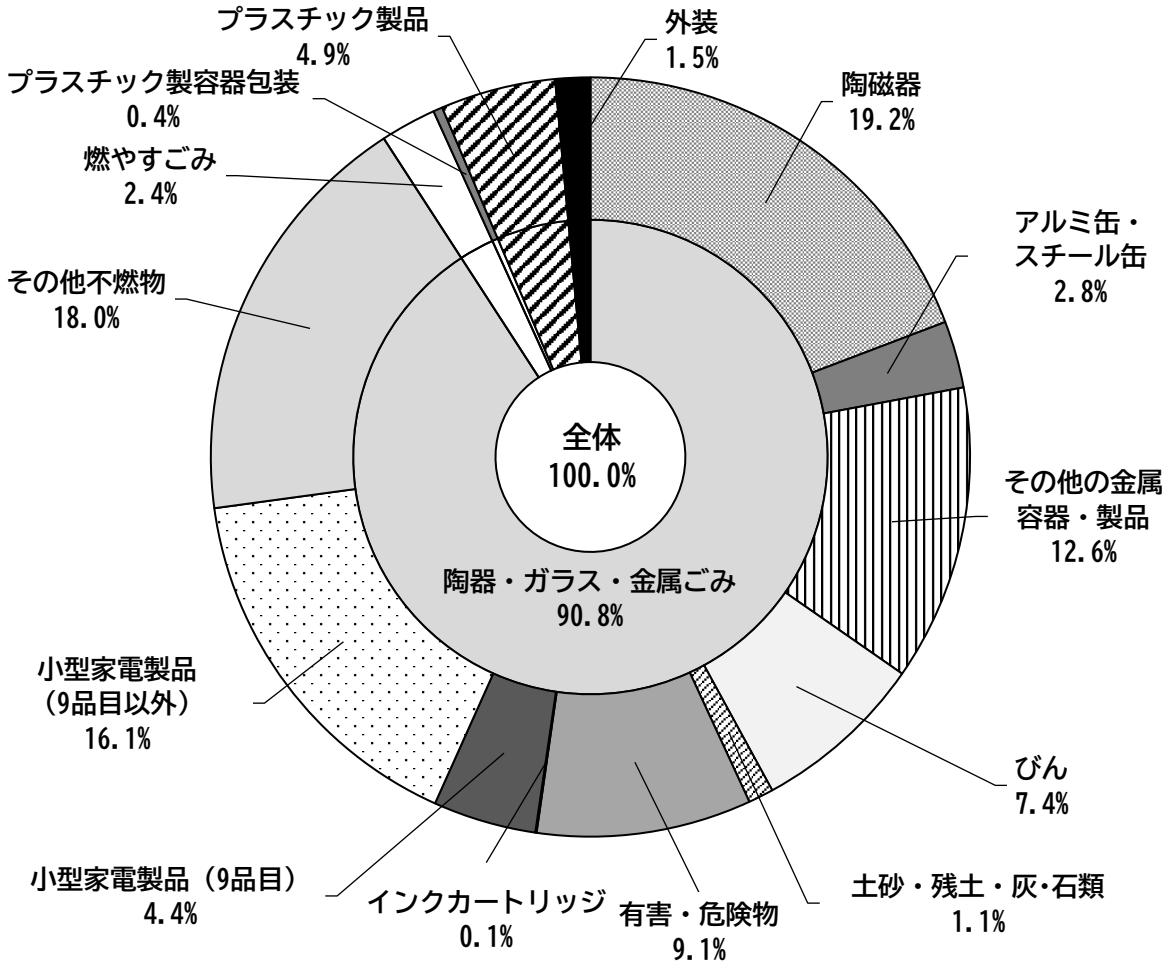
（４）調査結果の概要

①「燃やすごみ」及び「陶器・ガラス・金属ごみ」の組成

それぞれごみの組成については、以下のグラフに示すとおりとなった。



陶器・ガラス・金属ごみの組成



②食品ロス発生量推計及び「燃やすごみ」への資源化可能物混入率

「燃やすごみ」のうち最も多いのは「厨芥類」で、33.3%を占めており、「厨芥類」のうちの約２割が「食品ロス」に該当するものであった。「燃やすごみ」への資源化可能物の混入率は 25.6%で、「紙製容器・包装」や「繊維類」が多く含まれていた。

	６年度	７年度	８年度	８年度と７年度の比較	
				増減量	年度比
食品ロス発生量推計(ｔ)	3,575	3,459	3,902	443	112.8%
「燃やすごみ」への資源化可能物混入率	28.3%	25.7%	25.6%	-0.1%	-

（５）調査結果の公表

区ホームページに報告書全文を掲載する。